

R5 美麻小中学校 学校運営協議会の活動を振り返って

地域との協働により、自律した学習者の育成を目指す

1 今年度の活動内容

- 第1回 4月21日(金) ランチルーム
(1) 令和5年度 委員委嘱 及び 会長・副会長選出
(2) 令和5年度美麻小中学校ガイドラインについて
(3) 美麻スクールパートナーズの活動状況と今後の活動

- 第2回 12月15日(金) ランチルーム
(1) 美麻小中学校の自己評価について
①資料説明 ②総合評価 ③自己評価への質問
(2) 現状での来年度の予定 メンドシーノ受け入れ、文化祭など
(3) 美麻スクールパートナーズの活動状況と今後の予定

- 第3回 2月16日(金) ぼかぼかランド
(1) 令和6年度 美麻小中学校運営方針・ガイドラインについて
(2) スクールパートナーズの活動状況及び今後の活動について
(3) 令和6年度 学校運営協議会の運営について

【委員の声】

1 学びづくりへの評価について

- ・教科によって「問い」が良かったり、児童生徒の自主的な姿が見えたりと対話が深まっている姿がある。
- ・地域の関わってくれている方も、協働の学びのあり方を理解してくれている。地域の方の関わりが美麻の子を育てている。
- ・子どもたちは他の人の意見や声を聞き合えることを好意的に受け止めていることが学校評価から読み取れる。しかし、保護者の視点で回答を見ると、1の「そう思う」の回答がすべてマイナスになっている。参観しても授業が見られない。見ていないから評価できない。保護者が協働の学びをしている授業を見られるようになるといい。

2 体づくりへの評価について

- ・以前よりも元気アップが嫌いだという子が減っている。取り組みの「意味」を児童生徒が分かっている。活動の意味づけが位置付いてきている。
- ・元気アップの内容を自分たちで考えられることもうれしいようだ。元気アップを楽しくやっている。
- ・体力が落ちているようには思わない。でも楽しいだけではいけない。厳しさも必要だと感じる。もう少しハードなことも中学生あたりにやらせてもよいのではないか。

3 集団づくりへの評価について

- ・文化祭で臨機応変に対応する子どもたちのコミュニケーションをみた。まるで大人のようなやりとりですごいと思った。
- ・9年生のリーダーとしての伸びを感じる。夢の時間で、6年生のリーダーが困っている時は、上級生がリーダーシップをとるなどしてフォローする姿があるとよい。
- ・以前に比べ、特性のある子たちも発言したり、リーダーとして引っ張ったりする姿が見られるように感じる。



2 今年度の成果・課題 及び 次年度に向けた学校運営協議会の運営のあり方

新たな委員が加わったことにより、これまでとは違った様々な視点から学校教育活動を見つめていただき、貴重なご意見を頂戴することができた。また、委員の皆様には、子どもたちの学校での学びの姿を日頃からよく見ていただいているため、子どもの成長を認めてくださるばかりでなく、今後の課題も的確に示していただいている。さらに今年度は、学校運営協議会では熟議の時間の充実を図るために、座席設定のあり方、学校評価の説明の改善を行い、委員の皆様からの自由闊達な意見交換ができたことは有意義だった。次年度も引き続き、子どもの具体の姿から学校づくりへの意見をいただけるようにしたい。

R5 美麻小中学校 地域学校協働活動を振り返って

《今年度の取組内容》

「よりよい学校づくりが美麻の地域づくりにつながる」というねらいのもと、地域と学校とのより深いかわりが1年生から9年生まで活発に行われている。

子どもたちは地域の方々をはじめとした多くの方々との関わり合いによって、コミュニケーション能力や交渉力をはじめとした非認知的能力が向上し美麻のことを理解することから、自らよりよい地域づくりに寄与しようとする力“**社会力**”が合わせて向上している。

【事例】

(1) 4年 「美麻の民話を広めよう」(総合的な学習の時間)

美麻地区に伝わる民話を学ぶ中で、民話ができた実際場所へ行ってみたいとなった子どもたちは、地域の方々と一緒に現在は消滅した高地集落を訪れる。そこで生まれた民話を語り部の方から伺い、こうした民話を広めていくにはどうしたらいいかと考えを巡らす。民話を絵本の形で伝えていきたいと考えた子どもたちは、絵本作りのコツを絵本づくりグループの方から手ほどきを受ける。現在、民話絵本を鋭意作成中である。



(2) 3年 「ぼくたちの小屋 ドームテントづくり」 (総合的な学習の時間)

みんなで集える家を造ろうと考えていたところ、地域の木の専門家からドームテントの存在を教えていただく。学校周辺にある若木を切り出し、それを軸とした三角形を作り、接続器具を用いて立体的に仕上げていった。そのドームテントにみんなで集まり、感謝の会を開くことができた。



(3) 8年 「花豆株式会社 ～6代目～」(総合的な学習の時間)

これまでの卒業生が代々引き継いできた花豆株式会社を、8年生は新たな視点で発展。実った花豆を使った商品開発に取り組んできたこれまでとは異なり、今年度は花豆の花びらに着目。花びらを活用したキーホルダー、ピアス、ネックレスなどの商品を開発した。手ごろな価格とクオリティーの高い美を追求。想定以上の売り上げを得た。栽培過程で地域の方の力を借り、三蔵呑み歩きなどのイベントへの招待も受けた。



(4) その他

「1～4年 山菜とり、朴葉巻き」「1年 イワナの孵化」

「2年 豆腐づくり」「5年 米づくりと小屋づくり」

「7年 美麻のものでフルコース」「9年 獣害駆除+鹿革加工」など、様々な場面で地域の方々と協働活動を活発に実施することができた。

《今年度の成果・課題 及び 次年度の推進計画》

「学ぶ題材・解決すべき問いは、自らの足元・美麻にある」ことを実感するのは、まさにスクールパートナーズの方々、地域の方々との関わりが日常的にあることから始まっている。こうした地域学校協働活動が、子どもたちにどのような資質・能力を育成していくのかを、教師とスクールパートナーズが互いに共有することによって、学習活動の更なる充実を図っていきたい。